

吹田市で想定される地震による震度の予測

右の図は、吹田市で最も大きな被害をもたらす上町断層帯による地震の震度予測です。市域のほぼ全域にわたって震度6強以上、一部の地域では震度7となると予測されています。また、そのほかにも「南海トラフ巨大地震」では市全域で震度6弱と予測されています。

震度と揺れの状況



震度5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものがある。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



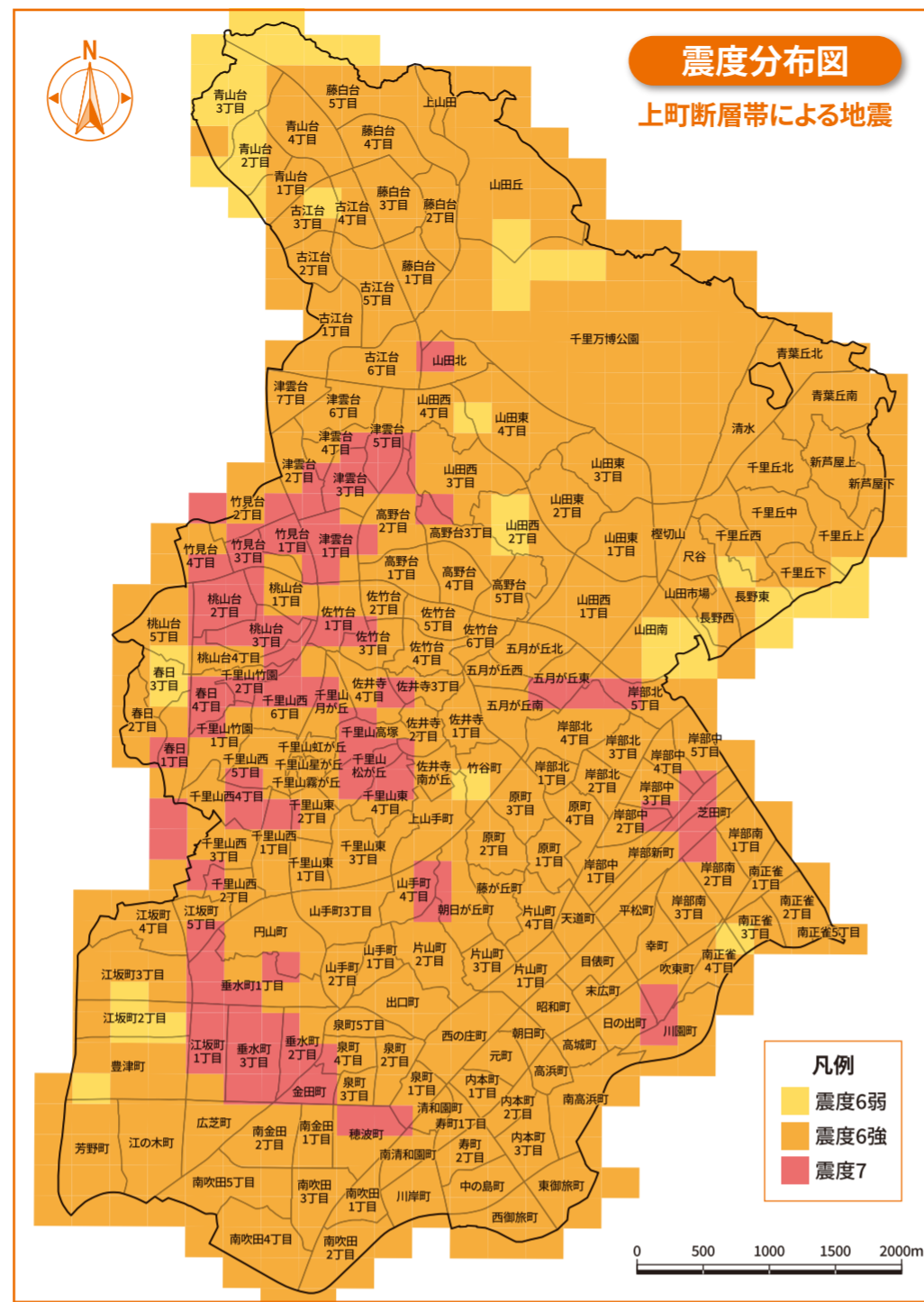
震度6強

- はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがある。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものがある。



出典：吹田市地震被害想定(概要版)

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	予報用語	想定される被害
10以上～20未満	やや強い雨	長く続くときは注意が必要。
20以上～30未満	強い雨	側溝などから水があふれることがある。
30以上～50未満※1	激しい雨	マンホールから水があふれることがある。
50以上～80未満	非常に激しい雨	地下街に雨水が流れ込むことがある。
80以上～	猛烈な雨	大規模な災害が発生するおそれが強い。

※1: 大雨注意報及び洪水注意報が発表される基準(1時間雨量30mm)
大雨警報及び洪水警報が発表される基準(1時間雨量45mm)

風の強さと吹き方

平均風速(m/秒)	予報用語	想定される被害
10以上～15未満※1	やや強い風	傘がさせない。
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩くことができない。
20以上～25未満※2	非常に強い風	車の運転を続けるのは危険な状態となる。
25以上～30未満		樹木が倒れ始める。瓦が飛び始める。
30以上～	猛烈な風	屋根が飛ばされるなど、木造住宅が壊れ始める。

※1: 強風注意報が発表される基準(平均風速12m/秒)
※2: 暴風警報が発表される基準(平均風速20m/秒)

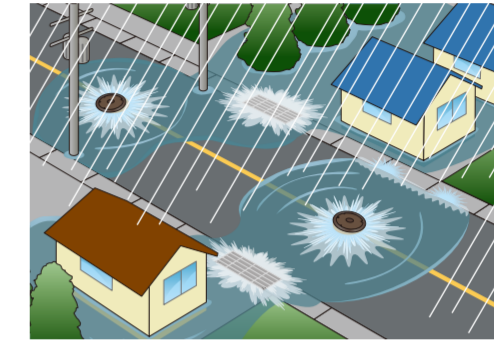
i 平成30年の台風21号では、吹田市において最大風速40m/秒を超える猛烈な風が吹き、家屋等に大きな被害が発生しました。

内水はん濫と外水はん濫

洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こる「内水はん濫」と、川の堤防が壊れたり、堤防から水が溢れたりして発生する「外水はん濫」があります。

吹田市では、外水はん濫による『洪水ハザードマップ』に加え、令和元年(2019年)から『内水ハザードマップ』を作成しています。洪水の発生するしきみを理解し、それぞれの浸水想定区域を確認し、避難所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

内水はん濫



短時間に集中して降る豪雨等により、水路や下水道の排水機能を超える大雨が降ったり、川の水位上昇により十分に排水できなくなると、マンホールや側溝から雨水が溢れ、住宅地や道路などが冠水します。

外水はん濫



長時間雨が激しく降ると、河川の増水により堤防が壊れたり、堤防から水が溢れだして浸水します。また、その付近で雨が降っていないくても、上流で降っていれば、河川が増水し、同様に浸水する危険性があります。

地震時のタイムライン

地震発生

- 自分の身を守る。
- 揺れがおさまったら、火の始末をする。
- ドアや窓を開けて、避難ルートを確認する。

～3分

- 家族の安全を確認し、隣近所の安否を確認する。
- 大きな地震後の地震活動(余震等)に注意する。

～5分

- テレビやラジオなどで情報を確認する。
- 電話はなるべく使わない。
- 家屋倒壊などの恐れがある場合、非常持出品を持って広いグラウンドなどの一時避難地へ避難する。

～10分

- 避難するときは、電気のブレーカーを切る。
- 避難するときは、ガスの元栓を閉める。
- 子どもを迎えに行く。

10分～数時間

- 消火・救出活動をする。
- 一時避難地で安否確認をする。
- 災害情報、被害情報をこまめに収集する。
- 引き続き地震活動(余震等)に注意する。

避難所開設

- 家屋倒壊などで自宅で生活できないときは避難所で生活する。

i 備蓄している食糧や水(目安3日分)、生活物資を持って避難しましょう。すぐには避難所に食糧等の救援物資は届きません。在宅で避難する人にも救援物資は提供されます。

災害情報の入手

地震発生



テレビ、ラジオ、防災行政無線、緊急速報メールが地震の発生を伝えます(震源が近い地域では、情報発信が強い揺れに間に合わないことがあります)。

地震発生後

市からの情報は、ホームページ、公式ツイッターやフェイスブック等から収集できます(広報車の巡回や公共施設の掲示板でも情報発信をします)。

ホームページのアドレス <https://www.city.suita.osaka.jp/>

▲「吹田市」で検索してください。

公式Twitterのアカウント名 @SuitaCity_Osaka

公式Facebookのアカウント名 @suita.city

- 気象情報や被害情報などは、テレビ、ラジオ、インターネット等でこまめに情報を収集しましょう。
- 電話の不通、停電などで情報入手が困難なときは、ラジオやスマートフォン等で情報を入手している人に協力をお願いしましょう。

避難の判断

- 避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)が出ていなくても、大雨警報が発表されたり、周辺地域で避難勧告が出たときには、**自主的に避難準備**をしましょう。
- 避難勧告、避難指示(緊急)が出たときには、**すみやかに避難**しましょう。夜間、雨の中を歩く速度は1時間で1.5～2kmが目安となりますが、お年寄りや子どもと一緒に歩くと時間はさらにかかります。
- 市からの**避難の呼び掛け**は、雨戸や風雨の音で聞こえにくい場合があるので、**テレビやラジオ等からこまめに情報を収集**しましょう。
- 指定された避難所等への**避難が困難**になってしまったときは、近くの**丈夫な高い建物に緊急避難**しましょう。

i 避難情報は防災行政無線、緊急速報メール、おおさか防災ネット等で発信されます。また、テレビ、ラジオ、インターネット等で自ら情報収集することもできます。

水平避難と垂直避難

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所等への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階以上といった高い場所へ移動(垂直避難)するなど、命を守る避難行動をとることが重要です。



避難場所への早めの避難



高所への避難

台風(大雨・暴風)のときのタイムライン

警戒レベル	市からの避難情報	あなたの行動	気象状況など
警戒レベル1		備えの再確認 ▶ハザードマップで自宅周辺の危険な場所を確認する。 ▶避難先(避難所や避難ビル等)と避難経路を確認する。 ▶非常持ち出し品を準備する。	台風到達 1～3日前
警戒レベル2		●停電や断水でも生活できるように備蓄、準備する。 ●台風の進路などの情報収集を開始する。	注意報
警戒レベル3	避難準備・高齢者等避難開始	●避難準備(いつでも避難ができるように準備する)。 ●避難に時間がかかる人(高齢者や乳幼児等)とその支援者は避難を開始する。	警報
警戒レベル4	避難勧告	●速やかに安全な場所(指定緊急避難場所など)への避難を開始する。	土砂災害・水害情報
警戒レベル4	避難指示(緊急)	●ただちに安全な場所(指定緊急避難場所など)へ避難する。 ●外出することでかえって危険が及ぶ状況では、 垂直避難 をしましょう。	
警戒レベル5	災害発生	●すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生

※避難情報は、これまでの雨量や災害、今後見込まれる雨量などから、状況に応じて発令します。必ず避難準備から順番に発令されるものではありません。